国際平和拠点
ひろしま

資　料　提　供
令和２年８月４日
課　　名：平和推進ﾌﾟﾛｼﾞｪｸﾄ･ﾁｰﾑ
担 当 者：栗原
内　　線：2365
直通電話：082-513-2366

バラク･オバマ前米国大統領，ローマ教皇フランシスコ台下から被爆75周年のメッセージをいただきました

広島県では，被爆 75 周年の今年，核兵器廃絶に向けた国際的な機運を高め，核兵器のない平和な世界の構築に向けて具体的に行動する賛同者を拡大するため，海外の著名人に対して「被爆 100 年を展望し，これからの広島に求められる役割・期待すること」についてのメッセージを募りました。この度，オバマ前米国大統領及びローマ教皇フランシスコ台下からメッセージをお寄せいただきました。

この他にも，バン・キムン前国連事務総長やベアトリス・フィン ICAN 事務局長からもメッセージをお寄せいただいています。（掲載者一覧は別紙のとおり）

県では，メッセージをお寄せいただいた皆さまの，核兵器廃絶の実現に向けた強い思いをしっかりと受け止め，国内外でより多くの人たちが，核兵器や平和についての関心を高め，行動につなげていただけるよう取り組んでまいります。

オバマ前米国大統領からのメッセージ（一部抜粋）

写真提供：広島市

原爆投下の日の記憶を持つ被爆者（ヒバクシャ）の方々と挨拶を交わしたことを忘れることはないでしょう。彼らはいつも，私たちに訴えかけてきます。科学の進歩が，破壊するためではなく何かを築いていくために利用される平和な世界を希求することを，決してあきらめてはならないのだと。

バラク・オバマ前米国大統領

ローマ教皇フランシスコ台下からのメッセージ（一部抜粋）

平和と繁栄を築くためには，すべての人々が兵器を，なかでも最も強力で破壊的な兵器である核兵器を廃棄しなければならないことは，かつてないほど明らかです。核兵器には，都市や国をことごとく損ない，破壊する力があるのです。

ローマ教皇フランシスコ台下（だいか）

全ての寄稿者からのメッセージは，「**国際平和拠点ひろしま**」ウェブサイトからご覧いただけます。（今後もメッセージが届き次第，追加掲載します。）

URL：https://hiroshimaforpeace.com/category/cat_hiroshima75/

国際平和拠点ひろしま　検索

別紙

被爆 75 周年メッセージ掲載者一覧

※アルファベット順

 バン・キムン エルダーズ副代表／前国連事務総長	 写真提供：広島市 バラク・オバマ 前アメリカ大統領	 ベアトリス・フィン ICAN 事務局長
 ローマ教皇フランシスコ台下	 ジル・カルポニエ 赤十字国際委員会(ICRC) 副総裁	 ジュリー・ホワイト アショカ上級フェロー，バージニア大学教授，1997 年ノーベル平和賞受賞者
 メアリー・ロビンソン エルダーズ代表／元国連人権高等弁務官	― モハメド・エルバラダイ 元国際原子力機構（IAEA）事務局長	 ニキル・セス 国連事務次長補兼ユニタール総代表
 フィリップ・コトラー ノースウェスタン大学ケロッグ経営大学院　SC ジョンソン＆サン特別教授		

BARACK OBAMA

August 6, 2020

On the occasion of the 75th anniversary of the atomic bombings, I want to extend my warm greetings to the people of Hiroshima and Nagasaki as you mark this solemn anniversary.

One of the great honors of my presidency was visiting Hiroshima in 2016. You have to stand in that place, where the bomb fell, to fully appreciate both the scale of destruction that took place and the miracle of Hiroshima's renewal. I will always carry with me the memory of folding my *orizuru* and visiting the Hiroshima Peace Memorial Museum and Park.

Above all, I will remember greeting the *hibakusha*, who carry with them the memories of that day. As always, they call on us to never give up in our pursuit of peace and a world where the miracles of science are harnessed to build, not destroy. I am proud that the U.S.-Japan alliance represents that spirit, and will always do my part to help it grow stronger.

I know that this is a particularly poignant anniversary, as there are few *hibakusha* with us. But I am heartened by the belief that their memory and example will never fade. As I said in my speech in Hiroshima: "Someday, the voices of the *hibakusha* will no longer be with us to bear witness. But the memory of the morning of August 6, 1945, must never fade. That memory allows us to fight complacency. It fuels our moral imagination. It allows us to change."

被爆 75 周年にあたり，原爆の日を厳かに迎えられる広島と長崎の皆様に，心よりご挨拶を申し上げます。

私の大統領在任中で非常に光栄だったことの一つは，2016 年の広島訪問でした。被爆地・広島を訪れ，かつてここで起きた破壊の大きさと，奇跡のような復活を遂げた広島の姿を，十分に認識するためにはそこに立ってみなければなりません。私は，自ら折り鶴を折り，広島平和記念資料館と平和記念公園へ赴いた時のことをずっと覚えています。

なかでも，原爆投下の日の記憶を持つ被爆者（ヒバクシャ）の方々と挨拶を交わしたことを忘れることはないでしょう。彼らはいつも，私たちに訴えかけてきます。科学の進歩が，破壊するためではなく何かを築いていくために利用される平和な世界を希求することを，決してあきらめてはならないのだと。私は，日米同盟がこの精神を謳っていることを誇りに思って,，この同盟をさらに強化すべく，常に自分の役割を果たしていきます。

今年の原爆の日は，参列される被爆者の数も少なく，とりわけ心が痛みます。しかし，被爆者の方々の記憶と体験が決して色あせることはないという信念に，私は勇気づけられます。広島訪問の際に行った演説でお話したことをもう一度申し上げます。
「いつの日か，証人としての被爆者の声を聞くことがかなわなくなる日が来ます。 けれども 1945 年 8 月 6 日の朝の記憶が薄れることがあってはなりません。この記憶のおかげで，私たちは現状を変えなければならないという気持ちになり， 私たちの倫理的想像力に火がつくのです。そして私たちは変わることができるのです。」

アメリカ合衆国　前大統領
バラク・オバマ

To His Excellency Hidehiko Yuzaki
Governor of Hiroshima Prefecture
6 August 2020

I offer cordial greetings to the organizers and participants in the seventy-fifth solemn anniversary of the nuclear bombing of Hiroshima in 1945, and in a special way to the *hibakusha* survivors of the original tragedy.

I was privileged to be able to come in person to the cities of Hiroshima and Nagasaki during my Apostolic Visit in November last year, which allowed me to reflect at the Peace Memorial in Hiroshima and at Hypocenter Park in Nagasaki on the destruction of human life and property wrought in these two cities during those terrible days of war three quarters of a century ago.

Just as I came to Japan as a pilgrim of peace last year, so I continue to hold in my heart the longing of the peoples of our time, especially of young people, who thirst for peace and make sacrifices for peace. I carry too the cry of the poor, who are always among the first victims of violence and conflict.

It has never been clearer that, for peace to flourish, all people need to lay down the weapons of war, and especially the most

powerful and destructive of weapons: nuclear arms that can cripple and destroy whole cities, whole countries. I repeat what I said in Hiroshima last year: "The use of atomic energy for purposes of war is immoral, just as the possessing of nuclear weapons is immoral" (Address at the Peace Memorial, 24 November 2019).

May the prophetic voices of the *hibakusha* survivors of Hiroshima and Nagasaki continue to serve as a warning to us and for coming generations! To them, and to all who work for reconciliation, we make the words of the psalmist our own: "For love of my brethren and my friends, I say: Peace upon you!" (*Ps* 122:8).

Upon all who commemorate this solemn anniversary I willingly invoke abundant divine blessings.

Francis

From the Vatican, 15 July 2020

2020 年 8 月 6 日
広島県知事
湯﨑 英彦 様

1945 年の広島への原爆投下から 75 年、この節目の日を厳かに迎えられる主催者および参加者の皆様、特に被爆者（ヒバクシャ）の皆様に、謹んでご挨拶を申し上げます。

昨年 11 月、私はローマ教皇として、自ら広島市と長崎市を訪問する機会に恵まれました。そして広島の平和記念碑と長崎の爆心地公園を訪れ、75 年前の戦禍により両市で起こった人命と財産の破壊について見つめ直すことができました。

私は昨年、巡礼者として来日いたしました。その時と同じように、私は現代に生きる人々の切なる願いを、特に平和を強く望み平和のために自らを犠牲にする若者の願いを、この胸に持ち続けています。また、貧しい人々の叫びも心に携えています。彼らはいつの時代も、暴力や紛争による被害を真っ先に受ける人々だからです。

平和と繁栄を築くためには、すべての人々が兵器を、なかでも最も強力で破壊的な兵器である核兵器を捨てなければならないことは、かつてないほど明らかです。核兵器には、都市や国をことごとく損ない、破壊する力があるのです。昨年、広島で述べたことを繰り返し申し上げます。「原子力の戦争目的の使用は、倫理に反します。核兵器の保有は、それ自体が倫理に反しています。」（2019 年 11 月 24 日、平和記念公園における演説より）

今後も、広島と長崎の被爆者の方々の叫びが、現代と次世代の人々に警鐘を鳴らし続けるものとなりますように。彼らに、また和解を求めて活動するすべての人々に、詩編の言葉を贈ります。「わたしはいおう、わたしの兄弟、友のために。『あなたのうちに平和があるように』」（詩編 122・8）

この被爆 75 周年を記念するすべての人々の上に、神の豊かな恵みのあらんことをお祈りいたします。

2020 年 7 月 15 日、バチカンより